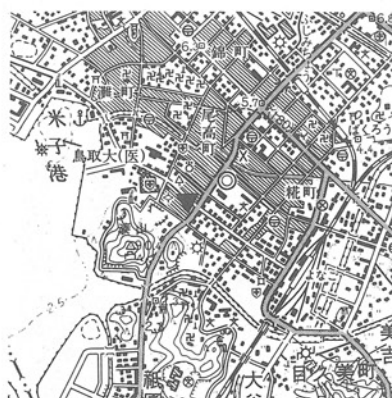


鳥取・米子城跡八遺跡

よなごじょうせき

- 1 所在地 鳥取県米子市加茂町
- 2 調査期間 一九九五年(平7)一月～四月
- 3 発掘機関 (財)米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
- 4 調査担当者 高橋浩樹
- 5 遺跡の種類 城下町
- 6 遺跡の年代 一七世紀～一九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

米子城跡は米子旧市街地に位置し、標高九〇mの湊山(城山)を中心に形成された城下町である。



(米子)

今回の調査地は城の正門に近く、正門からのびるいわば城下町のメインストリートに面する位置にあり、宝永六年(一七〇九)、享保五年(一七二〇)の絵図では白井金右エ門と伊木小治郎の屋敷、安政年間(一八五四～五九)の絵図では国

田の屋敷となっている。

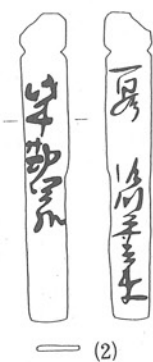
調査地は一七世紀は湿地であったが、一七世紀後半～一八世紀前半に整地が行なわれ武家屋敷の整備が行なわれている。また、幕末の整地層も確認している。遺構では武家屋敷に関わるものは確認できなかったが、屋敷と屋敷との境界に絵図には描かれていない溝(SD〇四)を検出した。溝は幅四・二m深さ〇・六mをはかり、両岸には竹や木の杭に竹などをわたしたしがらみがあり、堰も築かれている。

木簡は二点出土し、遺構に伴うものはSD〇四下層から出土した(10)のみで、その他は一七世紀の湿地堆積層から(1)～(9)、(11)、(14)～(18)、(20)～(22)、一七世紀後半～一八世紀前半の整地層から(13)、幕末の整地層から(12)(19)が出土した。一七世紀の湿地堆積層からは木簡の他に多量の木製品が出土しており、当時の武士の生活を窺い知る貴重な資料である。

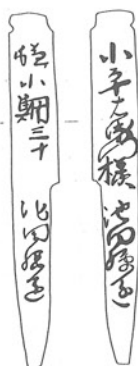
8 木簡の积文・内容

- (1) ・「<小原平右衛門様 松崎八郎エ門」
・「<鱈二ツ」
201×28×3 032
- (2) ・「<□□ □川平兵衛」
・「<佐々木勘兵衛様」
144×22×3 032

- | | | | |
|------|-----------------------|------------|-----|
| (3) | ・〈小原右衛門様 池田孫之進〉 | 165×21×2 | 033 |
| | ・〈塩小鯛三十 池田孫之進〉 | | |
| (4) | ・〈鳩五つ 奥村萬衛門〉 | 172×24×4 | 033 |
| (5) | ・〈荒儀太夫殿〉 | | |
| | ・〈ろふと三〉 | 238×21×4 | 033 |
| (6) | ・〈三五夜中新月〉 | 180×31×4 | 011 |
| (7) | ・〈十二月十八日 上□□様行事 九右衛門〉 | 252×25×3 | 011 |
| (8) | ・〈○□□〉 | | |
| | ・〈○□□□□□□〉 | 153×21×5 | 011 |
| (9) | □ | (144)×28×4 | 019 |
| (10) | □□□□□□○ | 165×30×4 | 011 |
| (11) | □□□□□□ | 164×24×2 | 051 |
| (12) | ・四斗六升 小 | | |
| | ・くろ | | |
| | ・十月□□ | (171)×29×3 | 059 |
| | ・□上五升八合 □□ | | |
| (13) | □□□□ | (171)×29×4 | 081 |
| (14) | ・新山村又× | (114)×22×2 | 019 |
| (15) | ・□□□□ | | |
| | ・□□□□ | | |
| | ・□□□□ | 205×25×3 | 051 |
| (16) | ・儀右エ門様 □□ | | |
| | ・くれ □□ | | |
| | ・か□□□□□□ | (174)×31×4 | 059 |
| (17) | □□□□ | (117)×17×3 | 059 |
| (18) | □ | (146)×22×3 | 059 |
| (19) | □左衛門様 西野三右エ門 | (158)×20×3 | 019 |
| (20) | 安右衛門 | (113)×27×7 | 081 |



(2)



(3)



(4)



(1)



(9)



(8)



(7)



(5)



(11)

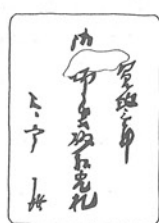
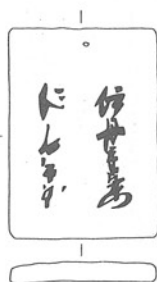
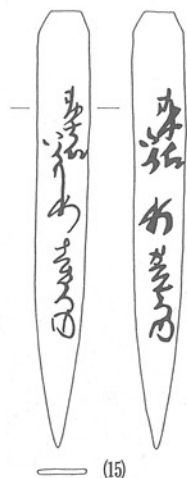
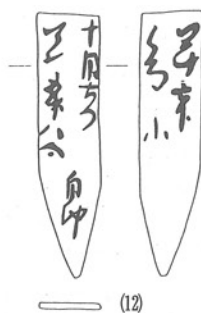


(10)



(6)





0 10cm

0 10cm

(21) 「平右衛門様」

135×19×8 011

(22) ・「寛政三年

御堀土砂船免札
限

・「伊丹重左衛門

伊木

143×99×12 011

(1) (5)、(7)、(10) (12)、(14)、(16)、(19) (21)は荷札木簡で、宛名、差出人、品物、数量が書かれている。(1)、(3)、(21)の小原平右衛門は同一人物であろう。(5)は荒尾儀太夫のことで、慶安二年(一六四九)の分限帳では五〇〇石取りとなっている。(6)は『和漢朗詠集』の一節である。(14)の新山村は米子市の南西部に位置する。(21)は桶の底板を再利用したものである。(22)は桶または樽の側板を再利用したもので、堀を浚渫した土砂の運搬船の免札であろう。

なお、今回の調査地に隣接する米子城跡七遺跡からも四枚の荷札木簡が出土している(本誌一七号)。

(高橋浩樹)

広島・山崎一号遺跡
やまさき

- 1 所在地 広島県東広島市西条西本町
- 2 調査期間 一九九四年(平6) 六月～七月
- 3 発掘機関 (財)東広島市教育文化振興事業団
- 4 調査担当者 妹尾周三
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 戦国時代(一六世紀前半)
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

東広島市は、広島県南部のほぼ中央、標高二〇〇～三〇〇mの賀茂台地上に位置しており、遺跡は県内有数の穀倉地帯である西条盆地中央部の東広島市街地に所在する。



(海田市)

山崎一号遺跡は、市道西条中央巡回線の改良工事に伴う緊急発掘調査のため、限られた範囲の調査ではあったが、戦国時代の集落が確認され、貴重な成果を得ることができた。